



平成 24 年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

第1 平成24年度事業報告（平成24年4月1日から平成25年3月31日）

当社は、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源を活かし、平成23年3月に北海道が策定した「北海道競馬推進プラン」を着実に推進し、ホッカイドウ競馬の経営の安定に向けて、効率的な競馬事業の実施に努めた。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 第36回通常総会 平成24年5月31日

- ・平成23年度事業報告、収支決算、貸借対照表及び財産目録について
- ・公社の法人移行について

イ 平成24年度第1回臨時総会 平成24年12月20日

- ・財産の取得（Aiba 静内）について
- ・Aiba 静内の移転について
- ・補正予算案について

ウ 平成24年度第2回臨時総会 平成25年3月22日

- ・平成25年度事業計画案及び収支予算案について
- ・組織体制について

(2) 理事会

ア 平成24年第1回理事会 平成24年5月25日

- ・平成23年度事業報告、収支決算、貸借対照表及び財産目録について
- ・公社の法人移行について

イ 平成24年度第2回理事会 平成24年8月1日

- ・静止画システムの整備について
- ・Aiba 静内の移転について

ウ 平成24年度第3回理事会 平成24年11月30日

- ・平成24年度開催結果について
- ・平成25年度開催骨子について

エ 平成24年度第4回理事会 平成24年12月20日

- ・財産の取得（Aiba 静内）について
- ・Aiba 静内の移転について
- ・補正予算案について

オ 平成24年度第5回理事会 平成25年3月22日

- ・平成25年度事業計画案及び収支予算案について
- ・組織体制について
- ・公社規程の一部改正について

(3) 監査

ア 監事監査 平成24年5月14日

- ・平成23年度事業報告並びに収支決算に係る監査

2 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け業務を実施した。

(2) 報償費について

報償費については、2歳馬の出走頭数の確保と魅力ある競馬番組を提供するため、2歳馬の出走手当の維持や未勝利競走の賞金を自主財源により維持するとともに、重賞競走の賞金増額などを行った。

また、(社)ジャパンブリーダーズカップ協会(以下「JBC協会」という。)などから1着報償金などの支援を頂き魅力ある競馬番組の提供に努めた。

(3) 開催日程について

平成24年度ホッカイドウ競馬は、全日程を門別競馬場グランシャリオナイターとして開催し、南関東や他地区との相互発売、インターネット、電話投票などによる発売拡大に努めた。(15開催80日間 4月25日から11月15日)

発売額は119億9,987万円で、前年比:103.7%、計画比:100.1%という結果となった。

また、非開催日においても、南関東やばんえい競馬、東海地区・岩手といった他主催者の場外発売により収益確保に努めた。

※7月5日・8月21日の2日間、合計5競走濃霧のため中止

(4) 発売拡大の取り組み

ホッカイドウ競馬の更なる発売拡大を図るため、道内では、既存場外発売所の再編整備を進めるとともに、集客対策を実施した。

また、道外発売については、南関東との連携強化はもとより、楽天競馬との連携のもと馬柱等の情報提供の充実を図りながら、東海地域など、他地域での発売拡大にも取り組むとともに、既存の電話投票やインターネット等の発売をはじめ、10月からはJRA即パットを活用した発売拡大に努めた。

さらには、平成25年3月から道内の各場外発売所においてJRA馬券の発売を開始し、新たな収益確保に努めた。

ア 既存場外の再編整備

- ばんえいと共同場外発売所のうちAiba 苫小牧を道営専用、帯広競馬場をばんえい専用の場外発売所として整備。(24年4月)
- Aiba 静内移転に伴うリニューアルオープン(25年3月)
- Aiba 札幌駅前有料席(6階)の直営化(25年3月)
- Aiba 浦河の移転を決定(平成25年8月頃移転予定)

イ 他主催者との連携強化による相互発売

他主催者でのホッカイドウ競馬の発売拡大を図るため、川崎競馬での全レース発売や大井競馬との3レース相互発売を実施した。

また、東海地域（名古屋、笠松）でのリレー発売や他地区での発売拡大を図った。

ウ 電話・インターネット投票の発売拡大

電話・インターネット発売の拡大を図るため、週刊競馬ブックやスポーツ紙などに馬柱といった情報提供を積極的に実施するとともに、10月から新たにJRA即パットでの発売を開始し、電話・ネットでの発売拡大に努めた。

エ 全国発売競走の拡大

グランダム・ジャパン、ダービーWeek、スーパースプリント、未来優駿2012などの地方競馬のシリーズ競走に参画し、全国発売による発売拡大を図った。

オ 道内場外発売所におけるJRA馬券の発売

平成25年3月23日（土）から、ホッカイドウ競馬の場外発売所（Aiba 浦河は除く）においてJRA馬券の発売（Aiba 札幌駅前とAiba 札幌中央はメインレースのみ）を実施し、新たな収益確保に努めた。

（5）施設・整備の運用について

冬期間の調教改善と強い馬づくりに資するための屋内調教坂路を整備するとともに、劣化が著しい外走路の改修整備を行った。

また、JRA 発売に対応するため共同発売システムの整備を行った。

なお、日高町が整備したゲストルームを無償で借用し来賓の対応に活用した。

・ 屋内調教用坂路	24年5月運用開始
・ 外走路整備	24年4月運用開始
・ 共同発売システム	25年3月運用開始
・ ゲストルーム	24年4月運用開始

（6）競馬番組について

競馬番組は、競馬事業の根幹部分であるため、常にファンに魅力ある競走を提供していくことが重要であり、ホッカイドウ競馬が他の地方競馬とは異なる2歳戦の競走が約4割を占めるという特色を活かすとともに、その翌年には全国の競馬場へ多くの活躍馬を輩出し、全国の競馬ファンからも注目されていることから、よりファンが注目する魅力ある番組づくりに努めた。

ア JRA 認定競走

J R A の協力のもと、認定競走を 1 1 1 競走実施。

- ・重賞競走 6 競走
- ・上級認定競走 1 7 競走
- ・フレッシュ 5 3 競走 (2 3 年度 5 3 競走実施)
- ・アタック 3 5 競走 (2 3 年度 1 0 0 競走実施)

イ 2歳重賞競走の1着本賞金の増額

J R A 認定競走の見直しにより 2 歳重賞競走の 1 着賞金の増額のもとで実施した。

栄冠賞	1 着賞金	2 0 0 万円	→	3 5 0 万円
バリーダースゴールドジュニアカップ	1 着賞金	3 0 0 万円	→	5 0 0 万円
リリーカップ	1 着賞金	1 5 0 万円	→	2 5 0 万円
イノセントカップ	1 着賞金	1 5 0 万円	→	2 5 0 万円
フローラルカップ	1 着賞金	1 5 0 万円	→	2 5 0 万円
サンライズカップ	1 着賞金	1 5 0 万円	→	2 5 0 万円

ウ JBC 協会協賛 スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着したスタリオンシリーズ競走を、J B C 協会の支援のもと全 4 6 競走実施した。

重賞競走	1 8 競走
2 歳	6 競走
3 歳・3 歳以上	1 5 競走
スタリオンプレミアムシリーズ	7 競走

エ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の高揚と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営の安定化に資する観点から公益社団法人日本軽種馬協会が実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全 5 3 競走を対象に実施した。

オ グランダム・ジャパン

全国の地方競馬主催者が牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズ (グランダム・ジャパン) 」に参加した。

①対象競走「ノースクイーンカップ (ワークフォース賞) 」 1 着賞金 3 0 0 万円

・実施日 7 月 2 6 日 (木)

②対象競走「エターナルイヴ賞」 1 着賞金 2 , 0 0 0 万円

・実施日 1 0 月 2 5 日 (木)

カ スーパースプリントシリーズ

全国の地方競馬主催者が短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパー

スプリントシリーズ」へ参加した。

- ・対象競走「ガラシャ門別スプリント（エイシンデビュー賞）」賞金200万円

実施日 7月3日（火） 距離1,000m

※北海道・岩手ブロック競走として実施

キ ダービーWeek

全国6カ所で実施されるジャパンダートダービーに向けた地方競馬の3歳重賞である、ダービーWeekシリーズに参加した。

- ・対象競走「北海優駿H1（ティーフスカイ賞）」1着賞金500万円

実施日 6月5日（火）

ク 未来優駿2012

全国7カ所で実施される兵庫ジュニアグランプリ及び全日本2歳優駿に向けた2歳重賞である「未来優駿」に参加した。

- ・対象競走「サッポロクラシックカップ」1着賞金300万円

実施日 11月6日（火）

ケ 平成24年度新馬流通推進対策事業の実施

地方競馬全国協会が実施する2歳馬の早期入厩促進を目的とした、2歳限定競走（JRA認定競走を除く）において、1着馬から5着馬までの馬主に付加賞金を贈呈した。

- ・付加賞金（進上金、番組賞金加算対象外）

1着50万円、2着10万円、3着7.5万円、4着5万円、5着2.5万円

- ・実施競走数 43競走

(7) ファンサービスについて

インターネット及びスポーツ新聞を活用した情報提供など、門別競馬場への来場者をはじめ、道内外ファンへの情報提供の充実を図り、ホッカイドウ競馬のファン拡大と発売拡大に努めた。

ア イベント広場の活用

イベント広場を活用して、「ケイバまつり」の実施や「ひだか特産市」など地域の食を提供するとともに、プチハウスによるレース観戦や門別競馬場オリジナルの「とねっこジンギスカン」の提供など、より一層競馬場に親しんでいただけの空間づくりに努め、競馬ファンのみならず地元地域をはじめ、道内外の観光客の方々にも好評を頂いた。

イ 道内場外でのファンイベント

全道場外発売所でのAiba祭の実施や、JRAとホッカイドウ競馬とのコラボレーションによるファンサービスの実施により、集客拡大を図った。

ウ 放映及び放送内容の充実

パドック解説及びレース結果の解説、翌日のレース展望や4コーナーカメラ増設による迫力ある映像提供など、購買意欲の向上に向けた放送内容の充実に努めた。

エ オフィシャルホームページの改修

JRAとの相互発売を契機に、ホッカイドウ競馬オフィシャルホームページの充実を図り、各種情報提供に努めた。

オ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移している携帯・インターネット投票の発売拡大策をより一層拡大するため、一般社団法人札幌馬主協会からご支援を頂きながら、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を実施した。

(サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知
東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ 7紙2レース掲載)

また、週刊競馬ブックでの重賞馬柱掲載やブックオンライン(ホームページ)から重賞予想データ無料ダウンロードサービスを実施した。

カ SPAT4 との連携

南関東電話投票(SPAT4)との連携により、会員への「メール配信・ホッカイドウ競馬チラシ送付、動画配信サービス」を実施した。

キ 札幌からの無料送迎バス運行

開催日(80日間)に札幌から門別競馬場までの無料送迎バスを運行し、特異日においては臨時便を運行するなど、札幌圏からのファンの利便性を確保した。

(8) 有名企業とのタイアップ

協賛競走に併せて協賛イベントを実施するなど、ホッカイドウ競馬をより親しんで頂くため、有名企業とのタイアップを積極的に行った。

ア サッポロビールとの連携

- ・オリジナル記念缶を作成し、全道のコンビニ等での販売を通じてホッカイドウ競馬のPRを行った。
- ・大通ビヤガーデン会場や札幌市内ホテルにおいて、競馬ライブ中継やゲームを交えたイベントを実施した。

イ 楽天競馬(競馬モール)と北農中央会・ホクレン・産地JAとの連携

楽天競馬と北農中央会・ホクレン・産地JAとのコラボレーションにより、楽天競馬で馬券を購入された方に日高管内特産品をプレゼントする、産直キャンペーンを実施した。

(9) 門別競馬場を活用した日高地域の活性化

日高振興局や北海道が実施する軽種馬産業の活性化を目的とした取り組みなどと連携し、日高の玄関口に位置する門別競馬場を起点とした各種ツアーの招致など、ホッカイドウ競馬と連携した日高管内の観光振興に努めた。